



(←HP)

「自らの一歩」

校長 菅谷 和孝

深まりゆく秋の色が美しい季節となりました。登下校の道すがら、金木犀の香りが微かに漂い、生徒の皆さんの学びへの意欲を後押ししてくれているようです。

さて、学校生活や日々の活動の中で、生徒の皆さんは多くの「指示」や「課題」に直面します。日々の授業、宿題、清掃活動、そして委員会や部活動など、「先生に言われたからやる」「仕方なく取り組む」といった受け身の姿勢になってしまうことはありませんか。実は、私たち大人でも陥りがちです。しかし、この「やらされる」という意識を、「よし、私はこれをやるんだ」という自発的な行動へと転換することこそが、人生における大きな成長と飛躍の鍵となります。「与えられる」のを待つのではなく、「自ら進んで」取り組む意思。この意識は、ただ物事をこなすだけでは得られない、深い達成感と真の能力を育みます。なぜなら、自発的な行動の裏には、必ず「なぜそれをやるのか」「どうすればもっと良くなるか」という自分自身の問い、つまり主体性が存在するからです。

ここで、皆さんがよく知るスポーツ界のプロフェッショナルたち、特に表舞台の裏側で重要視されている指導にまつわる話を紹介します。

かつてのスポーツ界、特に若手選手を育成する現場では、指導者が練習メニューから技術的な細かい動作まで、すべて細かく指示する「管理型指導」が主流でした。選手たちは、指導者の指示通りに動くことが求められ、それは「与えられた課題をこなす」訓練としては優れていました。しかし、近年の指導者は選手の真の能力を伸ばすために、「指示待ち」からの脱却を図っています。

あるチームの監督は、選手たちに次のように問いかけました。
「プロの試合では、一瞬で最善の判断を下さなければならない。例えば打席で、どの球を待つか。守備で、次の塁を狙うか。その判断は、ベンチからの指示だけで下せるのか？ 違うだろう。君たちが打席で、マウンドで、あるいは守備位置で、一瞬で最善の判断を下さなければならない。」そして、監督(コーチ)は選手たちに対し、練習の計画を選手自身に立てさせる方針に切り替えました。もちろん、基礎となる練習はありますが、その日の体調や目標に応じて、どの練習にどれだけ時間を割くか、どこを重点的に行うかを選手自身が考え、決めて、実行することを求めました。

最初は戸惑いがありましたが、選手たちはすぐに気づきました。「与えられたメニューをこなす」のは、実は一番楽なことであり、「自分で考え、計画し、実行する」ことこそが、本当に自分の能力を伸ばす唯一の方法であるのだと。

＊「今日は調子が悪い。打撃練習を少し減らし、その分、昨日エラーした送球の練習に時間を割こう」

＊「他の選手の練習を見て、自分には何が足りないかを考え、明日のメニューに組み込もう」

選手たちは、練習を「監督(コーチ)にやらされる課題」から「自分の成長のための手段」へと、自らの手で作り変えていきました。この「自ら考え、判断し、行動する」という自律的な姿勢こそが、一流の選手となるために不可欠な要素であり、現在のトップレベルの育成現場で最も重視されている考え方なのです。私自身も部活動の指導をしている時、いつも部員たちには、「一番きつい練習は自主練習だから」「この時間をどのように過ごしたかでこの先が大きく変わる」ということを言いながら、生徒たちの活動を見届けていたことを思い出します。

この話は、合唱祭に取り組む皆さんの姿にも重なります。合唱の練習で、「ここを大きな声で」「ここは弱く歌って」という指示(与えられたメニュー)をこなすだけでは、それはただの音の羅列に終わってしまいます。そうではなく、「なぜ、このフレーズで声を大きくする必要があるのか?」「この歌を通して、自分たちのクラスは聴衆にどんなメッセージを伝えたいのか?」と、一人ひとりが自ら問いを立て、考え、行動するとき、それは初めて「自分たちの歌」となります。歌が苦手な生徒も自信がある生徒も、合唱には誰一人欠かせない重要なパーツです。誰かの指示を待つのではなく、自信がある人は「どうすれば、歌が苦手な仲間の声を活かせるか」を自ら考え、歌が苦手な人も「自分たちの歌を楽しむこと、文字通り音を楽しむこと、そのためにできることは何か」と自ら意思を持って取り組んでみてください。



皆さんの歌声は、唯一無二の世界で1つしかないクラスのハーモニーです。皆さんが心から「この歌を、聴いている人に届けたい!」と本気であれば、その熱意は必ず相手に伝わり、大きな感動を生み出します。11月に開催される合唱祭までの取り組みを通じて、皆さんが「やらされる」という受け身の殻を破り、「自分で決めて、自分の責任でやる」という主体的な行動の素晴らしさを実感することを、心から期待しています。そして、この自発的な一歩こそが、皆さんの大きな成長と、これからの人生における飛躍の礎となるはずです。合唱祭は祭という文字がありますが順位(賞)がついてしまいます。しかし、結果後にその順位を超えた何かを本物にするには、準備も含め取り組んできた上記の行動です。本校の学校教育目標「自ら考え進んで行動する生徒」の体現を目指し、合唱を通して絆を深めていってください。